

自己評価ずれ・他者評価ずれと Big Five の関連性

Relationship of gap in self-evaluation and gap in evaluation to others with Big Five

横山 真衣[†], 小島 一晃[†], 山川 真由[‡], 三輪 和久[‡]
 Mai Yokoyama, Kazuaki Kojima, Mayu Yamakawa, Kazuhisa Miwa,

[†]帝京大学, [‡]名古屋大学
 Teikyo University, Nagoya University
 mai.yokoyama@main.teikyo-u.ac.jp

概要

本研究では、自己に対する評価のずれ、および、他者に対する評価のずれと Big Five との関連を検討した。グループワークを行い、自己評価と他のメンバーに対する他者評価を測定した。分析の結果、自己を過大評価する人は過小評価する人より、外向性と開放性が高いことが示された。また、他者を過大評価する人は過小評価する人より調和性が高いことが示された。

キーワード：自己評価ずれ(gap in self-evaluation), 他者評価ずれ(gap in evaluation to others), ビッグファイブ (Big Five)

1. はじめに

自分自身を過大評価する人がいる一方で、自分自身を過小評価する人がいる。同様に、他者のことを過大評価する人がいる一方で、他者のことを過小評価する人がいる。このように、人によって、自己や他者に対する「評価のずれ」があることは直感的には認識されているが、自己や他者を過大評価、あるいは、過小評価する人はどのような特性を保持しているのかは明らかにされていない。

本研究では、本人がつけた評価値と、本人以外のグループメンバーがつけた評価値の平均値との差を「評価のずれ」として算出し、自己に対する評価のずれ（自己評価ずれ）、および、他者に対する評価のずれ（他者評価ずれ）と人の性格特性を示す Big Five との関連を検討する。

2. 方法

参加者は大学生293名であった。手順を以下に示す。

グループワーク 参加者をグループにランダムに割り当て、グループワークを20分間行った。グループ編成は4名集団が1グループ、5名集団が53グループ、6名集団が4グループの計58グループであった。課題はグループで話し合いを行い、結論を1つだけ導き出すことであった。課題文は「次のうち、無人島に1つだ

け持っていくとしたら？」であり、選択肢は「ナイフ、縄、毛布、音楽プレイヤー、ライター」であった。

質問紙調査 質問紙によってグループワークにおける自己評価と他のメンバーに対する他者評価を測定した。自己評価に関しては、「あなたはチームで1つの結論を導くことにどれだけ貢献しましたか？」に対して6件法で回答を求めた。他者評価に関しては、「チームメイト〇〇さんはチームで1つの結論を導くことにどれだけ貢献しましたか？」に対する回答を、6件法で自分以外のグループメンバーの人数分求めた。

後日、質問紙調査を行い、参加者の Big Five を測定した。並川ら [1]の29項目に対して7件法で回答を求めた。この尺度は、外向性(5項目)、誠実性(7項目)、情緒不安定性(5項目)、開放性(6項目)、調和性(6項目)で構成されている。

3. 結果

グループワークに参加し、質問紙調査の質問項目全てに回答した273名を分析対象者とした。

3.1. 変数の設定

自己評価ずれ・他者評価ずれ 本人がつけた評価値と、本人以外のグループメンバーがつけた評価値の平均値との差を「評価のずれ」として算出した。例えば、メンバーA, B, C, Dの4人集団の場合、Aの自己評価ずれ(ΔSE_A)とAの他者評価ずれ(ΔOE_A)は以下の式で求めた。

S_{XY} : XのYに対する評価

$$\Delta SE_A = S_{AA} - \text{Avg}(S_{BA} + S_{CA} + S_{DA})$$

$$\Delta OE_A = \text{Avg}[\{S_{AB} - \text{Avg}(S_{BB} + S_{CB} + S_{DB})\} + \{S_{AC} - \text{Avg}(S_{BC} + S_{CC} + S_{DC})\} + \{S_{AD} - \text{Avg}(S_{BD} + S_{CD} + S_{DD})\}]$$

自己評価ずれの値が大きいほど自分自身を過大評価しており、値が小さいほど自分自身を過小評価していると解釈する。同様に、他者評価ずれの値が大きいほど他者を過大評価しており、値が小さいほど他者を過小評価していると解釈する。

分析対象者の自己評価ずれの平均値と標準偏差は $M = -0.239$, $SD = 1.034$, 他者評価ずれの平均値と標準偏差は $M = 0.002$, $SD = 0.871$ であった。

Big Five Big Five の5因子モデルを想定し、確認的因子分析を行ったところ適合度が受容できる値を示した (CFI = .916, RMSEA = .049, SRMR = .052)。Cronbach の α 係数を算出したところ、外向性は $\alpha = .841$, 誠実性は $\alpha = .778$, 情緒不安定性は $\alpha = .798$, 開放性は $\alpha = .775$, 調和性は $\alpha = .771$ となり、全ての下位尺度において内的一貫性があることを確認した。各下位尺度に含まれる項目の平均値をそれぞれの尺度得点とした。

3.2. 自己評価ずれ・他者評価ずれと Big Five の関連

分析対象者を自己評価ずれと他者評価ずれの平均値をもとに、positive 群と negative 群に群分けし、群間で Big Five の5因子に差が見られるかを検討した。自己評価ずれが平均値以上の場合は自己評価ずれ positive 群、平均値より小さい場合は自己評価ずれ negative 群とした。同様に、他者評価ずれが平均値以上の場合は他者評価ずれ positive 群、平均値より小さい場合は他者評価ずれ negative 群とした。

Big Five の5つの因子を目的変数とし、自己評価ずれ (positive 群と negative 群の2水準) と他者評価ずれ (positive 群と negative 群の2水準) を説明変数とする2要因の分散分析を行った (表1)。その結果、外向性と開放性において、自己評価ずれの主効果(それぞれ, $F(1, 269) = 13.89$, $p < .001$; $F(1, 269) = 13.36$, $p < .001$)が見られ、自己評価ずれ positive 群の方が自己評価ずれ

negative 群よりも外向性と開放性の得点が高かった。調和性において他者評価ずれの主効果($F(1, 269) = 4.12$, $p < .05$)が見られ、他者評価ずれ positive 群の方が他者評価ずれ negative 群よりも調和性の得点が高かった。いずれの目的変数においても、交互作用は有意ではなかった。

4. 考察

本研究では、自己評価ずれ、および、他者評価ずれと Big Five との関連を検討した。その結果、自己評価ずれ negative 群よりも自己評価ずれ positive 群の方が、外向性の得点が高かった。このことから、自己を過小評価する人よりも自己を過大評価する人の方が、社会的、活動的、積極的[2]、といった性格特性を有することが示唆された。また、自己評価ずれ negative 群よりも自己評価ずれ positive 群の方が、開放性の得点が高かった。このことから、自己を過大評価する人は過小評価する人よりも、幅広い好奇心に富む、芸術性、創造性、柔軟性[2]、といった性格特性を有することが示唆された。

他者評価ずれ negative 群よりも他者評価ずれ positive 群の方が、調和性の得点が高かった。このことから、他者を過小評価する人よりも他者を過大評価する人の方が、協調性、向社会的、他者への愛情や思いやりがある[2]、といった性格特性を有することが示唆された。

文献

- [1] 並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛・野口裕之, (2012), “Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討”, 心理学研究, Vol.83, No.2, pp. 91-99.
- [2] John, O. P., (1990) “The “Big Five” factor taxonomy: Dimensions of personality in the natural language and in questionnaires”. In L.A. Pervin (Eds.), Handbook of personality: Theory and research. New York: The Guilford Press, pp. 66-100.

表1 分散分析結果

自己評価ずれ		positive		negative		主効果		交互作用 F値 df=1,269
		positive N=88	negative N=55	positive N=59	negative N=71	自己F値 df=1,269	他者F値 df=1,269	
外向性	$M(SD)$	4.82(1.18)	4.96(1.22)	4.29(1.21)	4.42(1.10)	13.89	*** 0.90	0.00
誠実性	$M(SD)$	3.28(0.94)	3.08(1.05)	3.15(0.98)	2.95(1.07)	1.01	2.71	0.00
情緒不安定性	$M(SD)$	4.66(1.29)	4.63(1.24)	4.82(1.14)	4.81(1.08)	1.41	0.03	0.00
開放性	$M(SD)$	4.58(1.00)	4.48(0.98)	4.05(1.10)	4.12(0.98)	13.36	*** 0.01	0.42
調和性	$M(SD)$	4.44(1.03)	4.26(1.05)	4.36(0.98)	4.05(0.79)	1.46	4.12 *	0.31

*** $p < .001$ * $p < .05$